教師用学級づくり尺度作成の試み

○松本奈浦¹・津川秀夫²

(¹吉備国際大学大学院心理学研究科 ²吉備国際大学心理学部)

キーワード：学級づくり，未然防止，中学校教師

Development of the Class Management Scale for junior high-school teachers.

Naho MATSUMOTO ¹and Hideo TSUGAWA ²

(¹Graduate school of Psychology, Kibi International University, ²School of Psychology, Kibi International University)

Key Words: class management, prevention, junior high-school teachers

目 的

学校現場において、学級崩壊やいじめなど様々な問題が指摘されている。深谷（2000）は、学級や授業の荒れを「日常的に起きる状況」「やや逸脱した状況」「無秩序状態」の3段階に分けて捉えており、段階が進むにつれ対応が困難になるとしている。したがって、学級崩壊などの深刻な問題が起こってからではなく、日常的に起きる小さな問題の段階で対応することが重要となる。

そこで本研究では、学校現場における問題の未然防止の観点から、教師の良好な学級づくりに役立つ、「学級づくり尺度」の作成を目的とした。

方 法

対象者 中学校教員 87 名（男性 50 名，女性 37 名；平均年齢 42.1 歳， $SD=10.8$ 歳）。そのうち、担任が 48 名（平均年齢 41.25 歳， $SD=8.78$ 歳），副担任が 32 名（平均年齢 43.47 歳， $SD=11.38$ 歳），教科のみ担当する教員が 11 名（平均年齢 41.10 歳， $SD=12.28$ 歳）であった。

調査時期 2016 年 9 月下旬～10 月中旬。

質問紙の作成 CiNii により「学級，尺度」のキーワードで 2005～2015 年の論文を検索した結果，8 本の論文が該当した。該当論文および同時期に発刊された「月刊学校教育相談」から学級づくりに関する項目を抜き出し，これらを *KJ* 法にかけ，質問紙（全 74 項目）を作成した。回答法は，「とてもよくする」から「まったくしない」の 6 件法であった。

結 果

因子分析 探索的因子分析（主因子法，*promax* 回転）の結果，4 因子 42 項目が抽出された（Table 1）。

第 1 因子は「学級目標やルールを掲示する」など，学級でのルールや環境維持を表す 13 項目からなり，〈ルール〉と命名した。第 2 因子は「生徒の悪い行いを注意する」など，問題への注意や指導を表す 10 項目からなり，〈注意〉と命名した。第 3 因子は「生徒と話す時間を作る」など，生徒理解や生徒との関わりを表す 13 項目からなり，〈つながり〉と命名した。第 4 因子は「発言する場面と聞く場面を分ける」など，集団コントロールや指示の工夫を表す 6 項目からなり，〈指示の工夫〉と命名した。

α 係数は，各因子において .80 以上の値を示し，一定の内的整合性が認められた。

性別による比較 *t* 検定をおこなった結果，どの因子においても有意差は示されなかった。

学年による比較 「中 1」「中 2」「中 3」の 3 群に分け，因子ごとに一要因の分散分析をおこなった。その結果，どの因子においても主効果は認められなかった。

担当による比較 「担任」「副担任」「教科のみ」の 3 群に分け，因子ごとに一要因の分散分析をおこなった。その結果，〈ルール〉および合計得点に主効果が認められたため，多重比較検定（*Tukey*）をおこなった。〈ルール〉において「担任」が「教科のみ」よりも有意に得点が高く（ $p<.01$ ），「副担任」

が「教科のみ」よりも有意に得点が高かった（ $p<.05$ ）。また，合計得点において，「担任」が「教科のみ」よりも有意に得点が高かった（ $p<.05$ ）。

ま と め

本研究では，良好な学級づくりに役立つ「学級づくり尺度」の作成を試みた。その結果，〈ルール〉〈注意〉〈つながり〉〈指示の工夫〉の 4 因子 42 項目が抽出され，学級づくりのために教師がおこなっていることが明らかになった。

Table 1 因子分析結果(主因子法, *promax* 回転)

	I	II	III	IV
I ルール($\alpha=.92$)				
19. 学級目標やルールを掲示する	.91	.03	-.17	-.08
18. 生徒の学級での役割を掲示する	.90	-.15	-.01	-.02
7. 学級のルールを作る	.80	.06	.04	-.05
15. 生徒に学級での役割を与える	.74	-.05	.06	.07
8. 学級で達成するための目標を決める	.72	.13	.05	-.03
9. 席替えを定期的にする	.69	-.12	-.01	-.02
17. 学級での役割を定期的に交代する	.68	.01	.09	-.01
13. 教室の備品の使い方を決める	.63	.18	.02	-.02
12. ゴミ箱をきれいに保つ	.61	.01	-.06	-.00
22. 学級だよりを定期的に配布する	.58	-.17	.09	-.03
20. 活動予定を掲示する	.58	-.01	.09	.15
75. 長期休み明けに学級のルールを再確認させる	.51	.09	.06	-.07
31. ロッカーが乱れていたら直させる	.44	.22	-.09	.04
II 注意($\alpha=.88$)				
24. 生徒の悪い行いを注意する	-.05	.85	-.09	-.02
23. 生徒のルール違反を注意する	.03	.73	-.09	.07
25. 服装の乱れを注意する	.20	.70	-.04	-.08
36. 授業の始めに授業に必要な物を出させる	-.13	.67	-.00	-.01
28. 生徒の悪い言葉づかいを注意する	.21	.63	-.14	.04
35. 授業に関係のないものを片づけさせる	-.17	.62	.15	.01
32. 授業中に生徒の姿勢が崩れていたら直させる	-.08	.62	.10	.04
27. 人を傷つける発言をしたときに注意する	.19	.61	-.07	-.04
34. 授業中に寝ている生徒を起こす	-.10	.59	.00	.07
39. 私語を辞めさせる	.03	.49	-.02	.02
III つながり($\alpha=.88$)				
5. 生徒と話す時間を作る	-.04	-.11	.83	-.10
4. 生徒に日常的に声をかける	-.06	-.11	.75	-.04
6. 休み時間などに生徒と過ごす時間を作る	.01	-.23	.63	-.01
60. 生徒の得意なところを見つける	-.17	.24	.62	.09
62. 生徒がうまくできている場面に気づかせる	-.05	.12	.54	.11
61. 生徒の苦手なところを見つける	-.08	.31	.54	-.07
69. 生徒と問題を解決する方法を一緒に考える	.08	-.11	.53	-.06
66. 生徒同士が交流する機会を設ける	.25	-.17	.52	.19
63. 生徒ができていない場面に気づかせる	.10	.22	.51	-.07
3. 朝や下校時生徒に声をかける	.09	.11	.49	-.12
58. 生徒の長所を見つける	.14	.15	.48	.17
68. 先生自身のエピソードを話す	.06	-.02	.44	.00
64. 生徒同士で互いの良いところを見つけさせる	.25	-.11	.41	-.04
IV 指示の工夫($\alpha=.84$)				
44. 発言する場面と聞く場面を分ける	-.05	-.01	-.01	.85
46. 見て学ばせるため生徒に手本を示す	.03	.06	-.07	.75
41. 授業中に生徒の気持ちの切り替えを行う	.12	-.01	-.04	.72
53. 生徒と関わるときに場面に合わせて対応する	.10	-.03	.02	.68
38. 忘れ物をしないように持ってくるものを示す	-.14	.11	-.10	.62
40. 授業の始めに生徒の興味を引く話をする	-.14	.10	.09	.42
因子間相関				
	.39			
	.49	.51		
	.28	.34	.39	